

パフォーマンスデータ

2009 年度のカシオの事業活動における環境パフォーマンスデータを集計報告します。

CO₂ の削減

2009 年度は国内拠点に関しては CO₂ 排出量の目標期間（2008 年度から 2012 年度の 5 年間）の第 2 年度にあたります。基準年などとの比較に用いる実績値は、初年度（2008 年度）と第 2 年度（2009 年度）の平均値になります。

国内生産拠点の目標は「実質生産高原単位で 1990 年度比 35%削減」です。2009 年度は 1990 年度比で約 30%の削減となりました。前年度に対しては約 20%の増加でした。対前年度で実質生産高原単位が増加したのは、国内の生産高が大幅に減少したためです。CO₂ 排出量そのものは、A 重油使用の吸収式冷凍機を電気を使ったターボ冷凍機に切り替えた熱源システムにしたことなども寄与して、対前年度で約 12%減少しました。

国内オフィス拠点の目標は「総量で 1990 年度比 9%削減」です。2009 年度は 1990 年度比で約 17%の削減となり前年度に引き続き目標をクリアしました。前年度比でも約 1%の減少となりました。

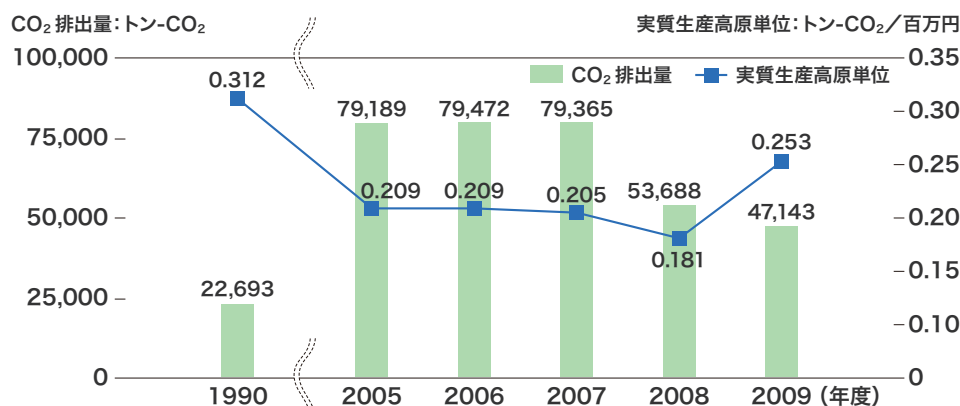
海外拠点の目標年度は 2012 年度の単年です。

海外生産拠点の目標は「生産高原単位で 2004 年度比 30%削減」です。2009 年度は 2004 年度比で約 13%の増加となりましたが、前年度に対しては、約 9%の減少でした。

海外オフィス拠点の目標は「総量で 2004 年度比 3%削減」です。2009 年度は 2004 年度比で約 44%の増加、前年度に対しても約 13%の増加となりました。前年度に対して増加したのは、2008 年度末に新築稼働したカシオヨーロッパによる排出量の増加が原因です。新社屋の建設・移転に伴い、これまで把握対象外としていた複数の物流拠点等を統合し施設規模を拡大した状態で新たに把握範囲に含めたこと、ならびに、旧社屋においては賃貸関連費用に含まれていたために把握できなかったオフィス空調関係のエネルギー使用量について、直接把握できるようになったこと、などがカシオヨーロッパの CO₂ 排出量が増加した主な理由です。

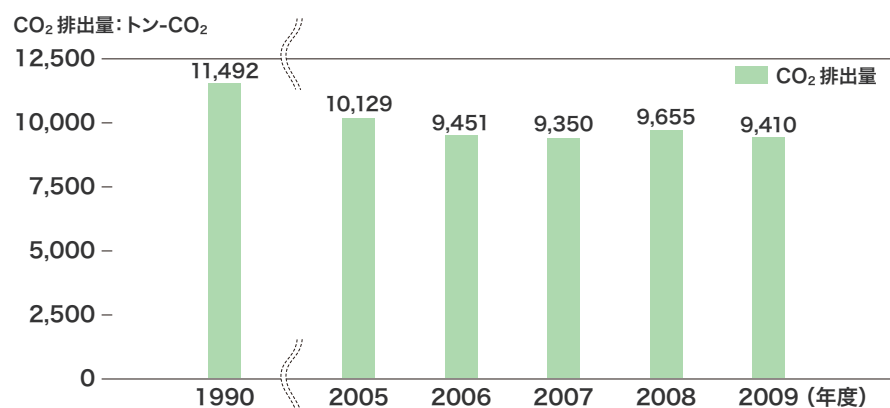
今後、国内外の各生産拠点については、生産設備の省エネ化や生産プロセスの改善に努めます。また、国内外のオフィス拠点については、照明、冷暖房設備などの省エネ化を促進し、CO₂ 排出量の削減に努めます。

■ CO₂ 排出量の推移（国内生産拠点）



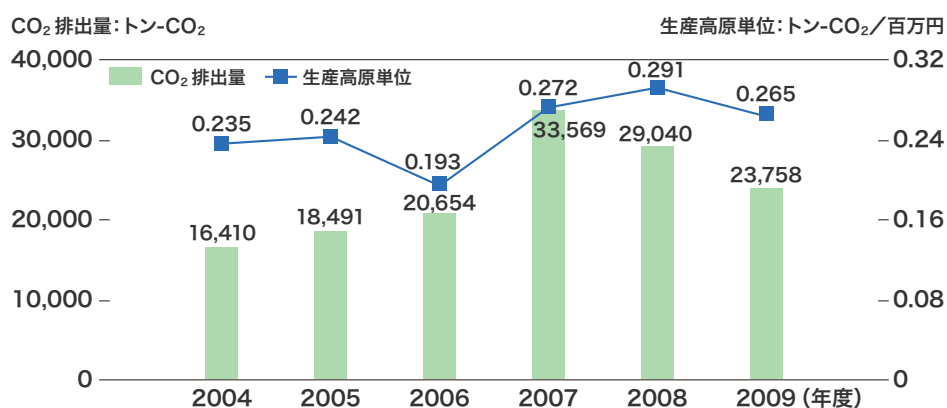
※国内生産系拠点で使用するエネルギー起源（電力、燃料等）による CO₂ 排出量の推移です。

■ CO₂ 排出量の推移（国内オフィス系拠点）



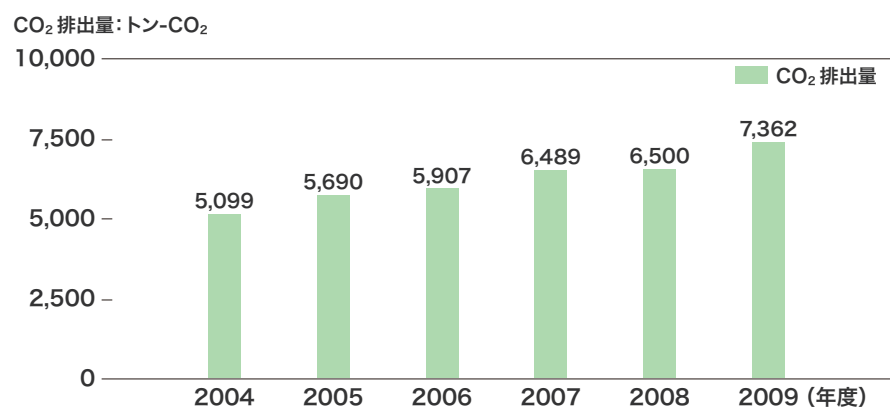
※国内オフィス系拠点で使用するエネルギー起源（電力、燃料等）による CO₂ 排出量の推移です。
目標設定で 1990 年度基準値には、拠点あり / データ無しの場合、一番古い把握データを代用追加する。

■ CO₂ 排出量の推移（海外生産拠点）



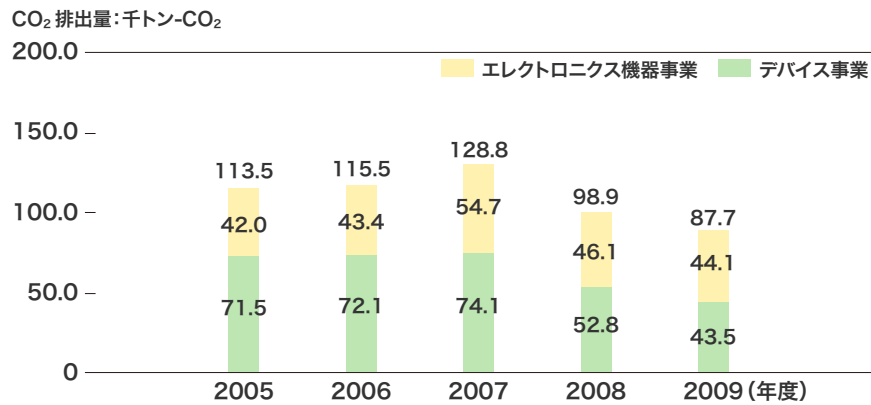
※海外生産系拠点で使用するエネルギー起源（電力、燃料等）による CO₂ 排出量の推移です。

■ CO₂ 排出量の推移（海外オフィス系拠点）



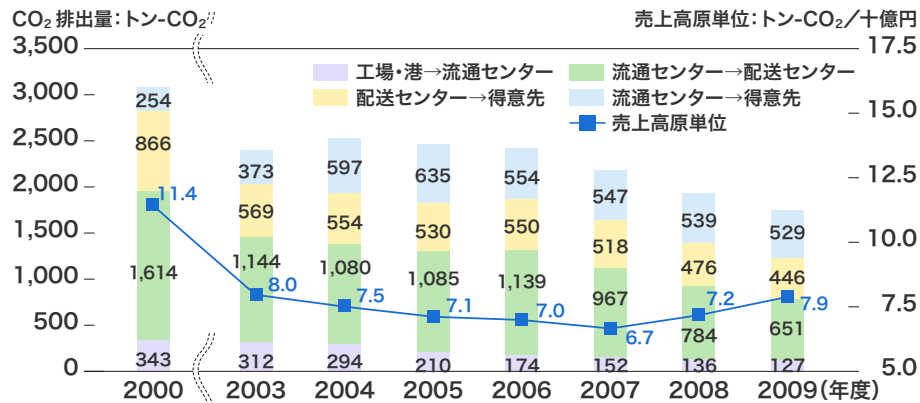
※海外オフィス系拠点で使用するエネルギー起源（電力、燃料等）による CO₂ 排出量の推移です。
目標設定で 2004 年度基準値には、拠点あり / データ無しの場合、一番古い把握データを代用追加する。

■ CO₂ 排出量の推移（エレクトロニクス機器事業とデバイス事業）



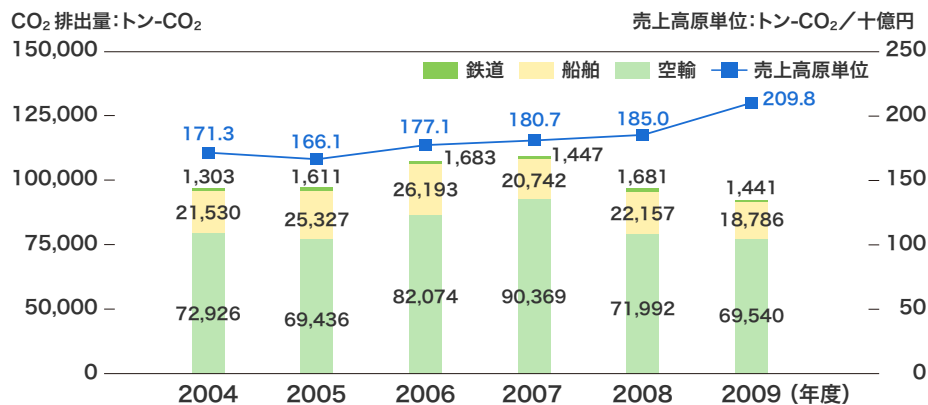
※エネルギー起源（電力、燃料など）による CO₂ 排出量の推移です。

■ 国内物流における CO₂ 排出量および売上高原単位の推移



※エネルギー起源（電力、燃料など）による CO₂ 排出量の推移です。

■ 海外物流における CO₂ 排出量および売上高原単位の推移



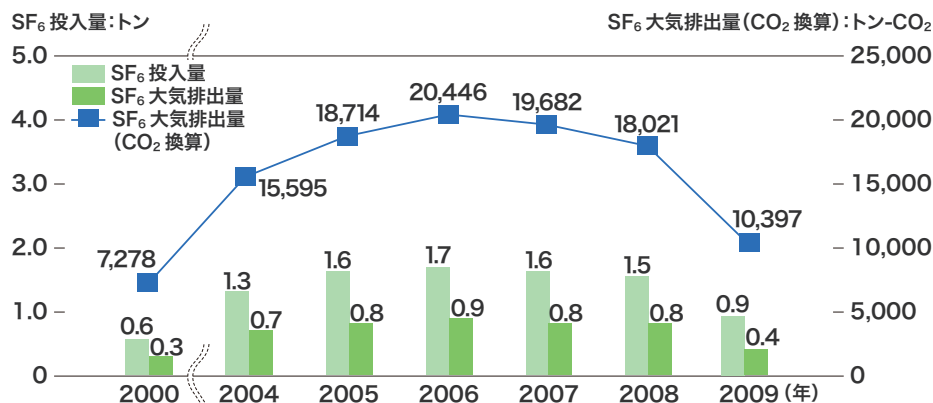
SF₆ ガスの削減

CO₂ 以外の温室効果ガスの削減目標は、「2010 年までに 2000 年の排出量以下とする」ことです。[※] SF₆ の排出量の 2009 年実績は、2000 年に対しては約 43% の増加、2008 年に対しては約 42% の減少となりました。対前年で減少したのは、生産量の減少が主な理由です。

SF₆ の排出拠点である高知カシオと八王子技術センター（デバイス部門）が、2010 年度 4 月より、カシオグループから凸版印刷グループに譲渡されるため、来期からは大幅に削減される見込みです。

※目標は暦年で、他の全体実績では年度で報告しています。

■ SF₆ ガス使用量・排出量と CO₂ 換算排出量の推移（国内生産拠点）



※業界行動目標に合わせたため、このグラフのみ暦年表示です。

廃棄物の削減

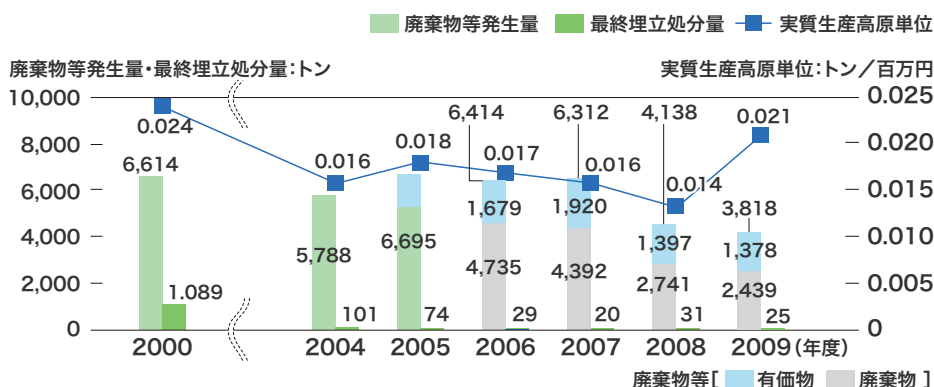
廃棄物発生量の削減目標年度は 2012 年度です。

国内拠点の目標は「実質生産高原単位を 2000 年度比 50% 削減」です。2009 年度は 2000 年度比で約 13% の削減となりました。前年度比では約 50% の増加です。対前年度では、廃棄物等発生量そのものは約 8% 減少しましたが、国内の生産高が大幅に減少したため実質生産高原単位が増加してしまいました。

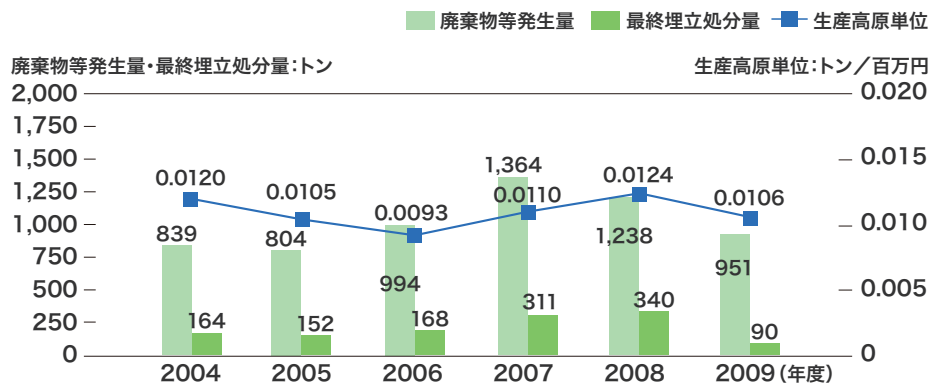
海外生産拠点の目標は「生産高原単位を 2004 年度比 30% 削減」です。2009 年度は 2004 年度比で約 12% の削減、前年度比で約 15% の削減になりました。

今後は海外拠点のさらなる削減策を検討します。

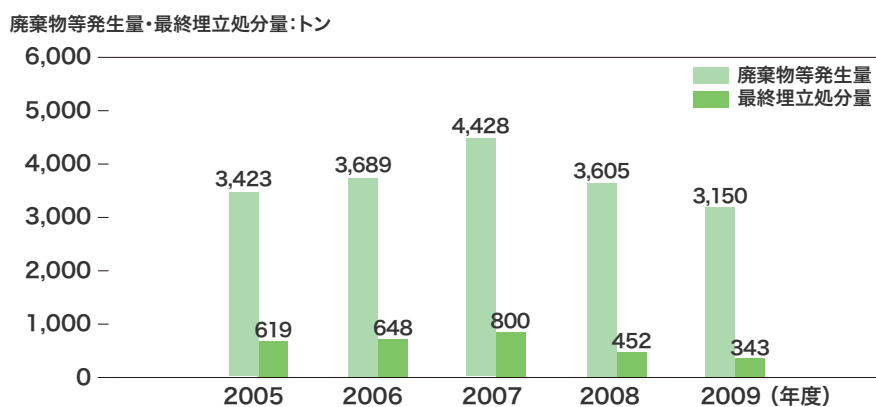
■ 廃棄物等排出量・最終埋立処分量および実質生産高原単位の推移（国内全拠点）



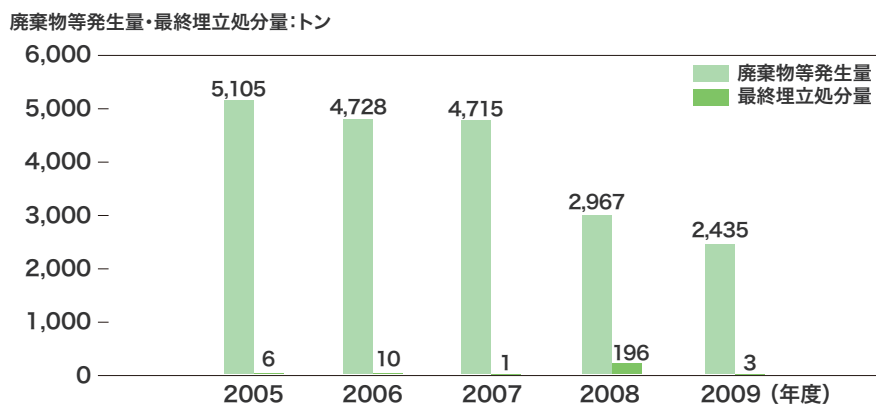
■廃棄物等発生量・最終埋立処分量および生産高原単位の推移（海外生産拠点）



■事業活動別 廃棄物等排出量・最終埋立処分量の推移（エレクトロニクス機器事業）



■事業活動別 廃棄物等排出量・最終埋立処分量の推移（デバイス事業）



※ 2008 年度にデバイス事業に追加分類した海外工場は 2009 年度に廃止清算されました。

水の削減

水資源投入量削減の目標年度は 2012 年度です。

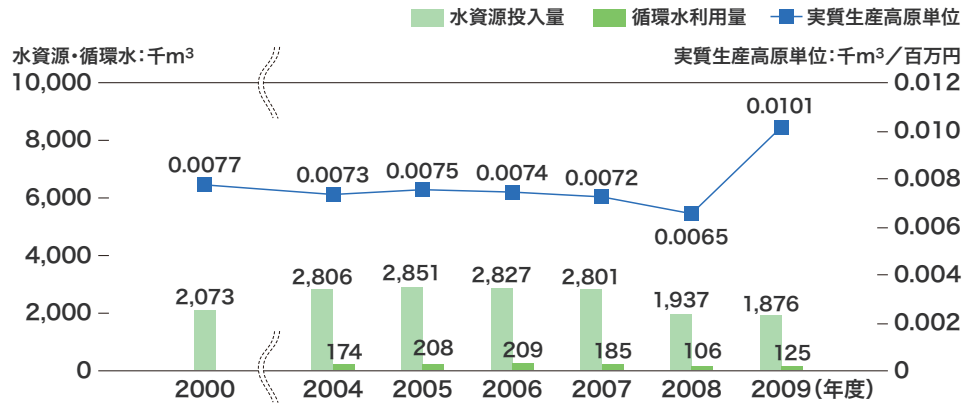
国内生産拠点の目標は「実質生産高原単位を 2000 年度比 25%削減」です。2009 年度は 2000 年度比で約 22%の増加となりました。対前年度では約 54%の増加です。前年度と比べると、水資源投入量そのものは約 3%減少しましたが、国内の生産高が大幅に減少し、このため実質生産高原単位が増加してしまいました。2000 年度に対しても、水資源投入量そのものは約 10%減少しています。

海外生産拠点の目標は「生産高原単位を 2004 年度比 15%削減」です。2009 年度は 2004 年度比

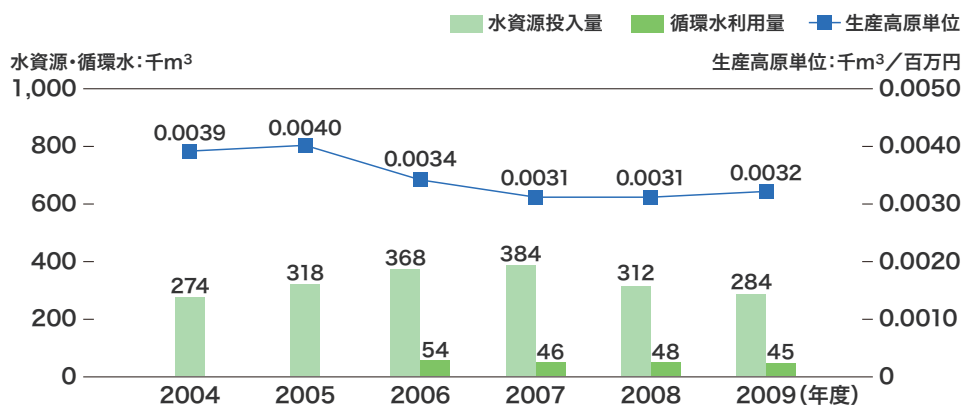
で約 18%の削減となり前年度に引き続き目標をクリアしました。対前年度では約 3%の増加でした。前年度に対して増加となったのは、水資源投入量そのものは減少したものの海外の生産高の減少がそれよりも若干大きかったためです。

今後はグループ内で、引き続き削減に努めます。

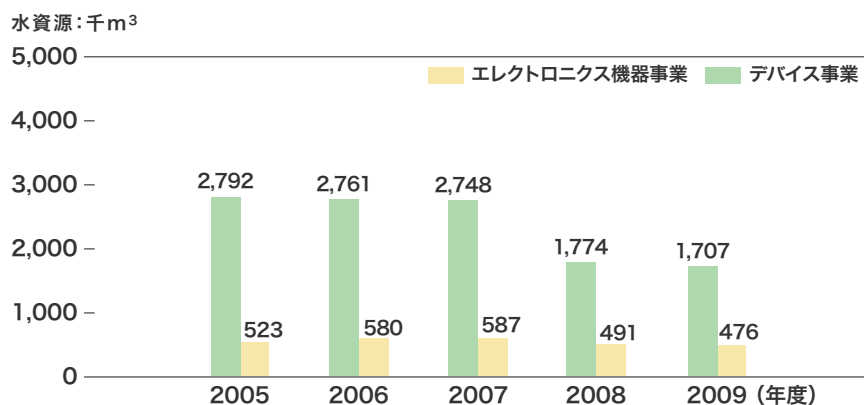
■水資源投入量・循環水利用量および実質生産高原単位の推移（国内全拠点）



■水資源投入量・循環水利用量および生産高原単位の推移（海外生産拠点）



■水資源利用量の推移（エレクトロニクス機器事業とデバイス事業）

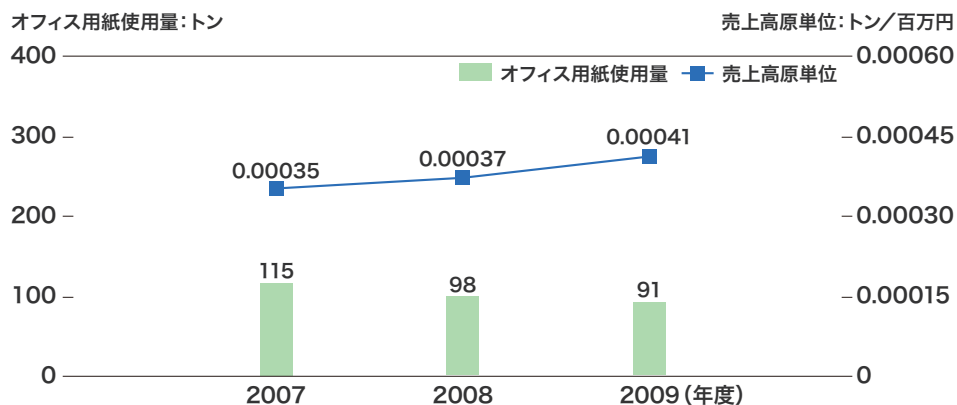


紙の削減

2009年度からスタートした国内拠点のオフィス用紙使用量の削減目標は、「売上高原単位で2012年度までに2007年度比10%削減」です。2009年度の実績は、2007年度比で約17%増となりました。オフィス用紙の使用量そのものは2007年度比で約21%減りましたが、売上高が減少したため売上高原単位は増加してしまいました。

今後グリーンITの推進との連動を強化し、一層の紙の削減に努めます。

■ オフィス用紙使用量の推移（国内全拠点）

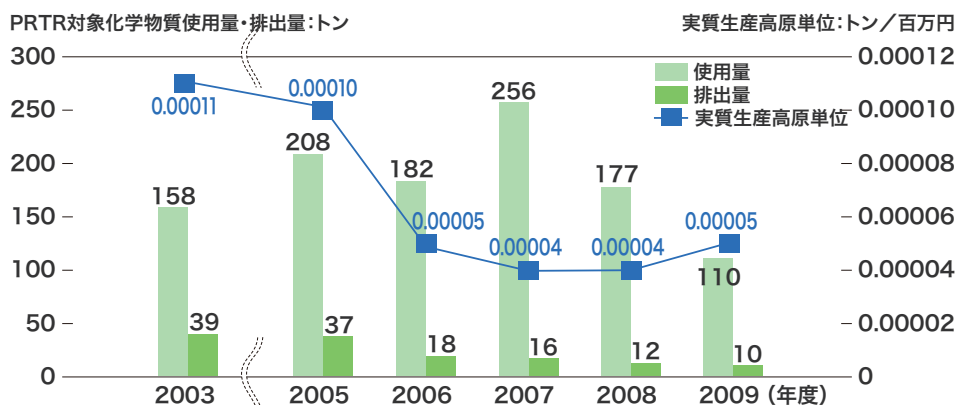


PRTR の削減

PRTR 法対象化学物質の削減目標は「2012年度までに実質生産高原単位で2003年度比40%削減」です。2009年度は2003年度比で約51%の削減となり前年度に引き続き目標をクリアしています。対前年度では約28%の増加でした。対前年度では、排出量そのものは約17%減少しましたが、生産高が減少したため、実質生産高原単位は増加してしまいました。

今後は代替品の検討を促進します。

■ PRTR 法対象化学物質使用量・排出量および実質生産高原単位の推移（国内生産拠点）

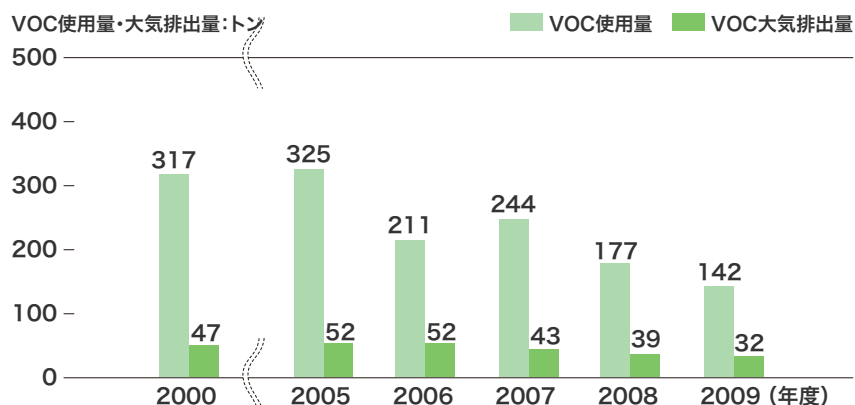


VOCの削減

国内生産拠点のVOC（揮発性有機化合物）の大気排出量の削減目標年度は2010年度で、目標は「2000年度排出量に対し30%削減」です。2009年度の実績は2000年度に対して約32%の削減となりました。対前年度でも約18%の削減でした。

今期も引き続き代替材への切り替えなどを検討していきます。

■ VOC 使用量および大気排出量の推移（国内生産拠点）



NO_x、SO_x、ばいじんの削減

NO_x（窒素酸化物）、SO_x（硫黄酸化物）、ばいじんの大気排出量がピークだったのは2005年度で、それぞれ138、37、2トンでした。2009年度実績はそれぞれ11.1、3.9、0.4トンになりました。これはA重油の使用を都市ガスと電気へと切り替えたためです。

今後もA重油の使用量を削減する努力を継続します。

■ NO_x、SO_x、ばいじんの大気排出量の推移

